

正義を洪水のように

アモス書 5 : 18 - 24



司祭 ヨハネ 井田 泉

2014年11月9日
聖霊降臨後第22主日

奈良基督教会にて

「だから、目を覚ましていなさい。あなたがたは、その日、その時を知らないのだから」 マタイ 25:13

いま聞いた福音書の言葉は、わたしたちを緊張させます。その日が来る。その日とは、裁きの日です。わたしたちがどういう生き方をしてきたかが、神の前に問われる日が来ます。

今日の聖書日課は三つとも共通するところがありました。旧約日課には「主の日」、使徒書には「主が来られる日」、そして福音書には「その日、その時」という言葉が響いていました。いずれも、わたしたちが姿勢を整えて、「その日」「主が来られる日」「主にお会いする日」に向かって生きるようにと促しています。

さて今日は旧約聖書・預言者アモスの言葉に耳を傾けることにしましょう。

アモスは紀元前8世紀、北王国イスラエルで活動した預言者です。元々彼は、家畜を飼育し、またいちじく桑を栽培する人で、祭司でもなく、預言者のグループに属する人でもない。言わば普通の人、庶民だったのです。ところが神さまは彼に、よく見える目と、よく聞こえる耳をお与えになりました。

アモスには見える。貧しい人々がひどい目にあわされているのが見えるのです。不当に高い税金を搾り取られて、生活できなくなっていく人々の現実。富める人々がますます肥え太っていく現実。

最近も彼は見ました。町の入り口に門がある。その門の内側

に広場があつて、裁判が行われていた。貧しい人が訴えを起こしていました。生活と自分の人格が踏みにじられたことを訴えて、奪われた生活と名誉を回復してほしいと求めたのです。ところがこの人の当然と思われた訴えは退けられた。その判決の背後に、賄賂が動いていた。しかしだれも声を上げない。この貧しい人の訴えを聞こうとしない。自分の身に危険が及ぶのを恐れているからです。

アモスはひとり声を上げずにはいられませんでした。

人々は善を求めず、正義を求めない。それは結局、神を求めているからです。

「善を求めよ、悪を求めな、お前たちが生きることができるために。そうすれば、お前たちが言うように、万軍の神なる主は、お前たちと共にいてくださるだろう。」アモス 5:14

こうしてアモスは、自分は預言者だとは思っていなかったのに、いつの間にか神の声を伝える者＝預言者となった（正確に言えば、神さまによってならされた）のでした。

アモスにとって、神殿で行われる盛大な礼拝は耐えがたいものでした。神がこれを厭いとわれる声が聞こえるのです。

「わたしはお前たちの祭りを憎み、退ける。祭りの献げ物の香りも喜ばない。

たとえ、焼き尽くす献げ物をわたしにささげても、穀物の献げ物をささげても、わたしは受け入れず、肥えた動物の献げ物も

顧みない。」 5:21-22

礼拝で香が焚かれます。これはまごころからの祈りが天に届くことを象徴するものです。ところがその盛大な礼拝を行っている人々は、祈っていない。自分の欲を満たすことを求めているのです。

おびただしい生け贄が献げられている。しかし神の前に犠牲を献げるのは、本来、自分の罪を赦していただくとともに、自分自身を神に献げることを象徴するものです。ところがここに献げられているのは、貧しい人たちから搾り取って得た富の一部が提供されているに過ぎない。

「お前たちの騒がしい歌をわたしから遠ざけよ。豎琴の音もわたしは聞かない。」 5:23

騒がしい歌。立派な楽器の演奏。しかしそれは神に献げる礼拝ではなく、自分たちが満足を得るための行事です。

アモスはここで「聞きたくない」と言われる神の声を聞いたのです。

けれども今日のアモスの言葉は、批判、否定で終わってはいません。

アモスが見た現実の世界は、言わば不正と食欲によって淀みきったため池でした。

しかし預言者は現実を見るとともにもう一つのものを見る。神が示されるビジョンを見るのです。アモスが見たのは何か。

ほとぼしる水。滔々と流れる大河です。清らかな命の水のほとぼしり。貧しい人々が生かされ、人々の魂が清められ、正義が行われる。ほとぼしる水、滔々と流れる大河が人の魂と生活と世の中を造り変えていくのです。

神がこれを実現しようとして呼びかけておられるのが聞こえます。

「正義を洪水のように、恵みの業を大河のように、尽きることなく流れさせよ。」 5:24

ここで「恵みの業」と訳されている言葉は、実は「正義」という意味の言葉です。なぜ「正義」が「恵みの業」なのか。それは貧しい人たちにとって、虐げられた人たちにとって、正義が行われることが神の恵みを経験することだからです。

ところでイエスさまはあるとき、サマリアの女性にこう言われました。

「しかし、わたしが与える水を飲む者は決して渇かない。わたしが与える水はその人の内で泉となり、永遠の命に至る水がわき出る。」 ヨハネ 4:14

「来て、わたしから飲みなさい」とイエスは言われます。

ほとぼしる水。滔々と流れる正義と恵みの業の大河につながっていく水を、イエスさまはわたしたちの、わたしの内側に湧き上がらせてくださいます。

わたしたちの関心が、貧しい人々、苦しめられている人々に向かいますように。その現実を見、訴える声を聞くことができますように。

わたしたちの魂が清められ、まごころからの礼拝をささげることができますように。

現実を見る目と、神のビジョンを見る目が、そして希望が、わたしたちにも与えられますように。

「正義を洪水のように、恵みの業を大河のように、尽きることなく流れさせよ。」5:24